

茶病虫害防除情報

令和6年8月7日

【第 13 号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

大切な秋芽の充実を図る

秋芽生育期の病虫害防除対策

今年産本茶生産も終盤になりました。連日の猛暑の中の茶生産ご苦労様です。今回は秋芽生育期の病虫害防除対策についてお知らせします。秋芽生育期には主要な病虫害が多発生します。これらの病虫害は秋芽の生育充実を損ない、来年一番茶の収量・品質に大きく影響します。また、発生した病虫害は発生源となり、来年の発生量も左右します。この時期は労力には比較的ゆとりがあり、農薬の使用制約も少ないので入念な防除に努めましょう。今年も二番茶後の浅刈り、深刈りなど更新園が多いため秋芽の生育は様々ですので芽の生育状態に合わせた防除を心掛けます。

☆ 発生する病虫害・・・炭疽病 新梢枯死症 網もち病 **チャノミドリヒメヨコバイ** **チャノキイロアザミ** **チャノホカ**
ハマキムシ類 **シャクトリムシ類** **チャノホリダニ** **カンザワハダニ** **マダラカサハラムシ** **チャトゲコジラミ**など

☆ 防除のすすめ方・・・秋芽生育期間中の被害を防ぐように 1 回目・萌芽～1 葉期、2 回目・3-4 葉期に混用散布による体系防除と補完防除で、総合的に病虫害を防除します。
品種、更新園などで芽の生育が異なるので生育に合わせた防除をします。

☆ 病虫害の発生と防除のポイント

炭疽病・・・並 **網もち病・・・やや少** **新梢枯死症・・・並**

降雨や多湿条件で生育中の秋芽の軟らかい新葉が感染しますので、秋芽生育期の天候に留意し、予防防除に努めましょう。基本的には萌芽～1 葉期に予防効果のある薬剤、3～4 葉期に治療効果のある DMI 系薬剤を散布して防除します。また、新しく確立されたダコニール 1000 と DMI 系薬剤を混用して 2～4 葉期に 1 回散布する新技術は体系防除以上の安定した高い防除効果があります。なお網もち病の発病の恐れのある茶園は生育後半に銅水和剤を、新梢枯死症はストロベリノ系薬剤を 2 葉期頃に補完散布すると的確に防除できます。

チャノミドリヒメヨコバイ・・・やや少 **チャノキイロアザミ・・・やや少** **マダラカサハラムシ・・・局地的発生**

今年の発生は三番茶期までは平年よりやや多い発生で、被害も少しみられました。一般に乾燥した晴天が続くと急激に増殖し、秋芽の生育期は最も被害を受ける恐れがあります。特に萌芽～生育初期の加害で被害が大きくなるため防除は遅れないようにします。増殖が速いため、残効性の長い薬剤で、2 回防除が必要です。一部地域で増加しているマダラカサハラムシは萌芽・生育初期に同時防除します。

チャノホカ・・・並早い **チャノコカモンハマキ** **チャハマキ・・・並** **やや少早い** **モギエダシク** 局地的

チャノホカは第 4・5 世代、ハマキムシ類は第 3・4 世代の発生で、多発することがあります。いずれも若齢幼虫期をねらい体系防除でも防除されることがありますが、多い場合や発生時期が合わない場合には専用剤で補完防除します。モギエダシクは局部的に発生がみられるので、発生を確認し、若齢幼虫期に防除します。

カンザワハダニ・・・やや少 **チャトゲコジラミ・・・全地域に発生** **チャノホリダニ**

最近カンザワハダニは更新園などに一時的に多発生することが多く、防除が必要です。また、チャトゲコジラミは県内全域に発生が拡大している状況ですので、第 3 世代幼虫を若齢期に体系防除の 2 回目で同時防除します。

☆ 防 除 対 策

表 1 秋芽生育期の病虫害基幹防除体系による防除法

(太字剤は栽培暦採用)

防除時期	対象病虫害	防除薬剤名	希釈倍数 (倍)	使用基準
秋芽生育期	炭疽病	1 回目 (萌芽-1 葉期)		
萌芽期	新梢枯死症	フロンサイト SC (南薩 北薩 種子)	2000	14 日前 1 回
↓ ◎ 1 回目	網もち病	ダコニール 1000 (日置)	700~1000	10 日前 1 回
1 葉期	もち病	+ (混用)		
↓	褐色円星病	コテツフロアブル (日置 始良)	2000	7 日前 2 回
↓	チャノミドリヒメヨコハイ	グレース乳剤 (南薩 北薩 肝属 種子)	2000	14 日前 1 回
2 葉期	チャノキアザミウマ	ガンパ水和剤 (曾於 有明)	1000~1500	14 日前 1 回
↓	チャノホカ	2 回目 (3-4 葉期)		
↓	ハマキムシ類	インダ-フロアブル (南薩 日置 北薩 種子)	5000~8000	7 日前 2 回
3 葉期	ヨモギエダシヤク	+ (混用)		
↓ ◎ 2 回目	チャノホリタニ	コテツフロアブル (南薩 北薩 種子)	2000	7 日前 2 回
↓	カンザワハダニ	ガンパ水和剤 (日置 始良 肝属)	1000~1500	14 日前 1 回
4-5 葉期	マダラカサハラムシ	アグリメック (曾於 有明)	1000	7 日前 1 回
	チャトゲコジラミ			

表 2 秋芽生育期の炭疽病など病害の殺菌剤混用散布による新防除法

(日置 始良 曾於 有明 肝属 地区)

対象病害	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
炭疽病	3-4 葉期	ダコニール 1000	700~1000	10 日前 1 回
新梢枯死症	(萌芽後最初の降雨	+ (混用)		
網もち病	から 11-12 日後迄)	インダ-フロアブル	5000~8000	7 日前 2 回

殺菌剤混用散布法の留意事項

- 1 本混用散布は秋芽 2 回目散布時 (3~4 葉期) に行い、殺虫剤と 3 種混用散布とする。
- 2 混用の際の殺菌剤の使用濃度は伝染源量、降雨状況などにより多発条件では高濃度、少発条件では低濃度など適宜判断する。
- 3 新梢枯死症の発生が多い茶園では、やや早めの 2-3 葉期散布の効果が高い。
- 4 網もち病の発生が多い園は 3-4 葉期散布が良く、更に 1 週間後 4-6 葉期に銅水和剤を追加散布すると効果的である。
- 5 ダコニール 1000 とインダ-フロアブルまたはワリーワンフロアブルおよび主要殺虫剤との 3 種混用は散布試験の結果薬害などは確認されていない。
- 6 害虫防除の殺虫剤萌芽-1 葉期散布は必ず実施する。
- 7 本混用散布で、秋芽の萌芽期から 4-5 葉期まで約 20 日間病害の感染・発病を防ぐことができる。

表3 秋芽生育期にその他問題になる病害虫の補完防除法（太字剤は栽培暦採用）

対象病害虫	防除時期	防除薬剤名	希釈倍数	使用基準
新梢枯死症	秋芽2葉期頃	アミスター20フロアブル	2000	14日前3回
網もち病 (多発生園)	秋芽4-6葉期 (8月下~9月上旬)	クプロシールト [®] (日置 北薩)	1000	前日 -
		ムッシュホルト [®] (南薩 始良 肝属)	500~1000	7日前 -
		フジトールフロアブル (曾於 有明)	500	14日前 -
ハマキムシ類 チャノホソガ ヨモギエダシヤク	若齢幼虫期 (卵~葉潜幼虫期)	アファーム乳剤 (南薩)	1000~2000	7日前1回
		ファルコンフロアブル (北薩)	4000~8000	7日前2回
		デリアナSC (その他の地区)	2500~5000	前日 1回
チャノホコリダニ	秋芽生育初期	サンマイトフロアブル	1000~2000	14日前2回
	発生初期	スターマイトプラスフロアブル	1000	14日前1回
カンザワハダニ	発生初期	タニサハラフロアブル	1000~2000	7日前2回
		タニコングフロアブル (北薩)	2000~4000	7日前1回
		アグリメック (日置 曾於 有明)	1000	7日前1回
チャトケコナジラミ	若齢幼虫発生期	ガンパ水和剤	1500	14日前1回
		デリアナSC (日置 始良 曾於 種子)	2500~5000	前日 1回

秋芽生育期薬剤散布時期の芽の生育状態



秋芽1回目散布時期 (萌芽-1葉期)



秋芽2回目散布時期 (3-4葉期)